

# 「基地問題市民フォーラム」開催



3月22日(日)、保健福祉センターで約400人の参加者を集めて、「基地問題市民フォーラム」が開催されました。

このフォーラムは今年9月に空母、インディペンデンス」に代わり新たに空母「キティホーク」が配備されることが決定したことに伴い、改めて市民の皆さんに基地問題について考えてもらうため、日ごろ空母艦載機の騒音問題に対処している市基地対策協議会の主催で開催されたもの。

会場ではまず、2年前に発足した「跡地利用市民懇話会」の委員である松原智子氏が、同懇話会のこれまでの取り組み

みについて報告をしました。続いて、「基地と世界情勢」をテーマに、国際政治・軍事アナリストとして活躍している小川和久氏の基調講演が行われました。

その後小川氏のほか、国士館大学教授で国際政治が専門の池田十吾氏、神奈川県平和委員会理事長の原昭正氏、土屋市長らがパネリストとして参加したパネルディスカッションでは、「大いに語ろう厚木基地」のテーマに沿って、神奈川新聞社相模東総局長の齋藤悦史氏のコーディネートのもと、活発に意見が交わされました。

また会場のロビーには、騒音測定回数推移など、基地についてのデータをまとめたパネルが展示され、訪れた人たちは熱心に見入っていました。



## 厚木基地司令官に「曲技飛行」の中止を要請

空母インディペンデンスは現在、中東に出勤中で、主催者(基地)側は今のところ今年の基地開放実施について明らかにしていませんが、情勢次第では空母が帰港し、艦載機が飛ぶおそれもあることから、3月4日、土屋市長は厚木基地司令官・フランク・スワイガート大佐に対し、基地開放日に恒例となっている米軍艦載機による「曲技飛行」を中止するよう要請しました。

要請の中で市長は、曲技飛行にも参加している艦載機E A 6 Bの同型機が2月にイタ

リアでロープウエー切断事故を起こしたことに触れ、人口が密集している基地周辺で万が一の時は大事故になると指摘し、市民の大多数が反対している「曲技飛行」の実施は米軍側の「友好親善」の趣旨にも反すると強く訴えました。

これに対し、司令官は、ベルシャ湾に展開中の空母の動向がつかめないため、今後の見通しについてはまだわからないとの回答でした。

市では、今後とも米軍側の動向に注目し、「曲技飛行」の中止に向け活動していきます。

## 吟醸「大和泉の森」(生酒)発売

4月20日から発売開始



大和市制施行40周年記念として、県央小売酒販組合大和支部では今月20日から吟醸「大和泉の森」(生酒)を販売します。同支部では平成8年から地元農家に協力を依頼して生産したお米を使用しており、好評を得ています。

今回発売される吟醸「大和泉の森」(生酒)はその米を50%以下に精米して造られており、味は辛口でこくがあつて芳醇です。

今月20日から市内の酒販小売店で720ml入りを、1本1500円で限定600本販売します。

問い合わせは市役所商業振興課 ☎(60)5134へ。

## 毎月第3土曜日はお宝探し

### 「やまとプロムナード古民具骨董市」開催

4月から大和駅東西プロムナードで、毎月第3土曜日に「古民具骨董市」を開催することになりました。古陶磁器からがん具、人形、軸物、古道具、古着、西洋アンティークまでさまざまなものが店先に並びます。ご家族連れで、ちよっとのぞいてみませんか。あなたのお宝が見つかるかも知れませんよ。当日はオープニングセレモニーが午前10時30分から開かれます。

とき 4月18日(日)から毎月第3土曜日

午前6時～午後4時 雨天決行

ところ 大和駅前 東西プロムナード

主催 大和駅ナード古民具骨董市実行委員会

問い合わせは事務局 ☎030(579)3828へ。

# 中央文化会館の 結婚式業務が終了

34年間に5,321組のカップルが誕生



中央文化会館で昭和39年から行われてきた結婚式業務が、3月31日をもって幕を閉じました。終了を前に30日、業務を委託していた「三寿会」の大島次郎会長ら3人のかたがたに土屋市長から感謝状が贈られました。同式場は「公立施設で簡素な結婚式を」と会館の開設と同時にスタート。昭和49年から三寿会に業務を委託していました。

廉価に結婚式が挙げられるため、昭和40年代には年間に300組以上の利用がありました。民間の式場の増加や結婚式の多様化などで、昭和50年代から利用者が減り始め、最近では年間10組にも満たない状況となったことから、市では結婚式業務を廃止することにしました。

結婚式業務の終了に伴い、市ではこの施設の一部を市民の生涯学習をサポートする「生涯学習センター」として整備することが決まっております。7月にはオープンの予定です。

下鶴間にある水質管理事務所・北部処理場に、新たに1万4000m<sup>3</sup>/日分の能力を有する水処理施設が完成しました。同処理場の下水処理能力は、すでに稼働している第1期・2期分と合わせて4万4000m<sup>3</sup>/日となり、水処理施設についてはこれで計画がすべて完了しました。

# 北部処理場の 水処理施設が完成



今回の増設は、今後の下水道整備区域の拡大や、人口の増加による流入下水の増加に対応するためのもので、下鶴間やつきみ野、中央林間などを含む北部処理区域のすべての下水を受け入れる準備が整ったこととなります。

市の下水道整備は、昭和29年、大和駅周辺地区の浸水防止を目的に始まり、下水道整備にはばく大な費用がかかるため、毎年少しずつ整備区域を拡大してきており、平成10年3月末見込みの市内の下水道整備済み区域面積は約1844ha、人口普及率(処理人口/行政人口)は、89.3%となっています。

# 「下水道」をもっと知って!

## 下水道イメージアップ事業

市では、より多くの皆さんに「下水道」のことを知ってもらい、下水道を通じて広がる「環境問題」を考えてもらうため、今年度も次のとおり、下水道イメージアップ事業を展開していきます。

**下水道ポスター展**

1学期中に、市内小学4年生を対象に「下水道ポスター」を募集します。入賞作品は9月に実施する「下水道フェア」で展示・表彰する予定です。

**大和市下水道フェア(仮称)**

9月に、「全国下水道促進デー」に合わせた参加型イベント、「大和市下水道フェア(仮称)」の開催を予定しています。

このほか、昨年度から実施してきた「下水道教室」や、FMやまと「下水道関連番組」の放送についても、積極的に取り組んでいく予定です。

問い合わせは市役所土木総務課 ☎(60)5476へ。

# やまと昔語り第6巻 「ああ 嗚呼 青年団」発行



市教育委員会では、昔の大和の姿をさまざまな観点から調査し、まとめたシリーズ「やまと昔語り」の第6巻「ああ 嗚呼 青年団」を発行しました。

青年団は、地域の青年が社会奉仕活動を通じて自らの修養や親睦を図るために自主的に組織した団体のこと。大正から昭和初期にかけては大和でも活発に活動していましたが、第2次世界大戦後の急速な都市化に伴い数を減らし、昭和30年代後半には消滅しました。

この本ではかつて下鶴間の青年団に所属していた6人の人たちの話を通して、青年団の歩んできた歴史や当時の青年団の活動の様子がまとめられています。

A6版、100部を市教育委員会社会教育課で、1,400円で販売しています。問い合わせは同課 ☎(60)6225へ。